

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001294		
法人名	株式会社 山市		
事業所名	グループホーム グリーンハウス (1F)		
所在地	名古屋市市中川区前田西町2丁目912番地		
自己評価作成日	平成26年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年 6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JivogyoCd=2371001294-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特筆する所は、毎月の行事や年一回の一泊旅行、入居者ご家族様一体となって作る、家族会やクリスマス会です。その様子等を当社ホームページ内のブログで随時、発信しております。また、町内会の回覧板にもグリーンハウス広報誌「スマイル」も回覧して頂き、紙媒体でも地域の皆様にグリーンハウス内の様子や施設を理解して頂けるように努めています。職員の定着率も高く、20~60代の男女が活躍しており、長く勤めているベテランスタッフの安心感、専門学校卒業の介護福祉士も多くフレッシュさもあり、入居者様の好みに応じてスタッフも臨機応変に対応しています。他にも地域の方々が誰でも利用しやすい地域密着の施設を目指し、住み慣れた土地で生活を送って頂く事を目的とした共用型認知症デイサービスも行っております。スタッフや入居者様、家族様から意見、アイデアを聞き、毎日楽し

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営理念の骨子である「楽しくぬくもりのある施設」、「幸せを感じる施設」、「誰でも利用できる地域に密着した開かれた施設」を目指し、職員の志を一つにして利用者の立場に立つホームの運営にチャレンジしている。理念の実践として、今までの利用者の暮らしの継続を基本に、主役を利用者と位置づけ、意向や習慣、嗜好を尊重した生活を大切にしている。毎日の晩酌、喫煙を認め、花好きの利用者は花壇の世話を担当し、畳の部屋に暮らしたい利用者には畳を配置し、利用者の思いに沿い支援している。
運営規定に「社会福祉施設の社会的責任を鑑み」生活保護の対象者の利用料の一部支援を行い、理念に掲げた誰でも利用できる開かれた施設を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、確認出来る所にあり入居者様の気持ちになって楽しく暮らして頂ける様に配慮している。また入居者だけでなく職員も幸せを感じる事が出来る施設作りを心掛けている。	運営理念を基に職員総意のホームの年間目標、月間目標を定め、実践に反映するよう取り組んでいる。月間目標は毎月実施の職員会議を通じて職員に周知し、意識の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の近所の方と会った時は必ず挨拶を行い、地域の清掃活動や防災訓練等にも参加している。近隣の小中学校の事業の一環で生徒訪問や運動会等の行事にも見学、参加している。	ホームの季刊誌や行事案内を地域に回覧し、住人の参加を得て交流している。地域の幼稚園から園児が訪問し、歌や折り紙のプレゼントがある。周囲の子供も日常的に遊びに訪れ、微笑ましい関係を築いている。	既に地域とのつきあいは良好である。地域の回覧板を活用し、認知症などの専門的な情報を交えて発信し、更に地域との双方向の交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を通して施設広報誌を発行し、地域の方々に回覧して頂く。施設敷地内に看板を掲げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、地域代表の方々に意見等を聞き反映している。自治体主催の防災訓練にも参加している。	利用者、家族、地域(区政協力委員、民生委員、消防団、幼稚園々長)、行政と、多くの参加者を集め、それぞれの視点から意見交換を行い、実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中川区西部地域包括イキイキ支援センターと運営推進会議を通して活動報告や市主催の研修会にも参加している。	運営推進会議に毎回地域包括支援センターの参加があり、ホームの実情を伝えている。行政主催の研修や会議に出席し、生活保護受給者のホームの受入りに協力しており、行政との協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行っている。一部入居者様に安全の為夜間のみ行っているが、ご家族様に現状を伝え、一人一人に合った対応をしている。	ホーム内研修を実施し、職員は拘束に関する十分な知識を有している。交通量の多い道路に面していることから、現在は玄関を施錠している。拘束を必要とする場合は家族に説明を行い、同意を得て期限を決めて実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し、報告会勉強会を開き、職員全員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は自宅にて行い、ご理解されるまで優しく詳しく伝える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回家族会を開催し、意見を取り入れている。	年2回の家族会では手作り弁当を準備し、ゲーム等のレクリエーションを通じて利用者、家族、職員の交流を行い、気さくに意見交換を行っている。ブログ公開、季刊誌、手紙、利用者写真などの情報を提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、意見を取り入れている。	月1回開催の職員会議は、漏れなく意見を表し情報を共有できるよう、全職員の参加としている。職員の定着率は高く、外部評価当日も職員から働きやすく遠慮なく意見の言える職場との声が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時面談を行い勤務状況を確認している。給与明細の備考欄にコメントがあり、向上心を持って働く事が出来る様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開き、名古屋市主催の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方が見学に来たり、見学に行く機会がある。他施設との勉強会にも参加し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を取り入れ、契約時にアセスメント表を設けて家族様に希望、要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時や家族会議時に不安に思っている事や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況の変化により話し合って対応している。訪問マッサージや訪問歯科など必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレク、会話を通じて本人の個性や以前の生活背景を知る様に努め、常に入居者様目線でケアしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご本人様の状況を報告している。随時連絡を取り、情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方と面会、外出を行っている。	地域の公園に、利用者自ら桜の植樹を行った思い出がよみがえり、桜の成長を見たいという希望を叶えるため、職員とのドライブが実現している。職員の見守りで、飲酒、喫煙の習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で良好な関係が築ける様に職員が輪の中に入り支援している。テーブル座席にも配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分なアセスメントを行い、希望に沿った生活が出来る様に取り組んでいる。	利用者の思いや意向の記録については、ホームの記録指定用紙を準備して記録する仕組みがある。しかしながら、職員の記録に対する意識には温度差があり、記録作成の徹底には至っていない。	日常的に利用者の意向を汲み取り、実現している事例はある。更なる意向や思いの把握には、職員の意識を高めて正確に記し、共有のうえ実践に反映できる体制作りを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などまとめて閲覧できる様にファイルにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の過ごし方、現状を記録に留め、職員一人一人が把握できる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、施設計画書を作成している。	6か月ごとに利用者、家族の意見を確認し、アセスメントの更新、モニタリング、ケアプランの見直しを実施している。しかし、ケアプランには、「その人らしい」利用者の思いや意向を反映した個性が乏しかった。	職員が意識的に利用者の思いや意向の把握を行い、「その人らしい」ケアプランが作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を作成し、記入している。特記事項は、職員連絡帳に記入し情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人合った支援を行い臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やお祭り、防災訓練、小学校運動会、コンビニ、喫茶店へ歩いて行き、楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医と提携している。	かかりつけ医は利用者、家族の希望医としている。提携医への検診は職員である看護師の健康管理情報を確認の上、職員が同行している。提携医以外の受診は家族の同行を基本とし、円滑な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問があり、相談、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーと相談して関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様に看取りについて説明し、十分な話し合いの下取り組んでいる。	入居時に利用者、家族に看取りの対応をしないことを説明している。重度化に際しては提携医の助言を受け、利用者、家族に十分な説明を行い、家族等から不満の出ない適切な対応となるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習会やマニュアル作成、AEDを設置、緊急時の対応について職員全員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を行い、非常食、担架、ライフジャケットを準備している。消防団や消防署とも連携を行っている。	年2回の訓練を実施し、夜間を想定した訓練では実際に利用者と避難し、かかった時間を測定して検証している。水害を想定し、ライフジャケット、担架、非常食を備え、消防署から「優良防災施設認定」を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いを気をつけ、プライバシー保護を尊重し対応している。	相性や心身の状態に合わせ、リビングの席を変更したり、居室の引越しを行ったりして、利用者の気持ちを尊重している。トイレ、入浴時の介助は視線に注意を払い、異性介助の苦手な場合は同性介助としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で希望を聞き、参加の有無を本人に自己決定をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日洋服を選び、二ヶ月に一度の訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、後片付けを手伝っている。好みの量を聞いている。	予めメニュー表を作成するものの、利用者と食材の買い物に出かけ、利用者の希望を聞き取ったうえで料理やおやつを追加することもある。法人代表は農業を営んでおり、多くの新鮮な野菜を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し必要に応じて水分摂取量も記録している。栄養バランスを考慮し、肉、魚、野菜その他のメニューも偏りなく組み込んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、夜間は義歯を外し洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、誘導を行っている。	排泄記録を取り、朝夕の申し送りを通じて支援方法について話し合い、快適な排泄に取り組んでいる。失禁のないよう適切な声かけ、誘導を行い、失敗した場合はさりげなく声をかけ、誇りを損なわない配慮がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取って頂けるよう10時15時にお茶やコーヒーの時間を設けている。整腸剤の服用や腹部マッサージも適時行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	早朝や夜間の入浴希望、職員勤務時間シフトでは不可能だが、なるべく本人の希望に沿った入浴時間に行っている。	2日おきの入浴で、1階に機会浴の設備を設け、身体能力や体調に合わせて一般浴と使い分けている。入浴の苦手な利用者は無理強いせず、声かけや職員を変えて対処し、難しい場合は翌日に延期している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、体調に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用後の記録、観察を随時行い、変化があればかかりつけ医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の放送や家事手伝い、買い物同行など役割を持って頂き、外出やレクで気分転換出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、床屋等に職員同行している。家族面会で外出、外泊される時もある。	気候を考慮した日課の散歩、庭でのお茶会、バーベキューと、外気に触れて気分転換のできるよう努めている。テーマパーク、夜景ドライブ、花見、買い物、喫茶外出に加え、毎年実施の1泊旅行は下呂温泉や伊勢神宮にまで足を延ばしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している入居者様を職員全員が把握し個人買い物時には自分で払っていた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を掛けて頂いているが時間には配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や製作物を飾り、時間に合わせて電気、室温調整を行い快適に過ごす事が出来る様に取り組んでいる。	都心から離れた住宅地の一角に位置したホームは、周辺に農地も点在し、不快な騒音や振動のない快適な環境にある。清潔な広いリビングに季節感のある飾りつけを行い、利用者にとってはくつろぎのある最適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやリクライニングチェアを設置して仲の良い入居者様同士で座れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や仏壇、好きな飾り物を持って来て頂いている。	洋室にベッドが基本であるが、畳に布団を敷いて寝たいという希望に応え、畳を手配して毎日布団を敷き、満足して暮らしている。仏壇に家族の遺影、趣味のパッチワーク、化粧品等を持ち込み、個性ある居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内で一人一人に合わせた足置き台を使用している。持ち手が付いた食器など食事時にも配慮を行い、夜間頻尿な方はポータブルトイレを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001294		
法人名	株式会社 山市		
事業所名	グループホーム グリーンハウス (2F)		
所在地	名古屋市市中川区前田西町2丁目912番地		
自己評価作成日	平成26年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年 6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001294-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特筆する所は、毎月の行事や年一回の一泊旅行、入居者ご家族様一体となって作る、家族会やクリスマス会です。その様子等を当社ホームページ内のブログで随時、発信しております。また、町内会の回覧板にもグリーンハウス広報誌「スマイル」も回覧して頂き、紙媒体でも地域の皆様にグリーンハウス内の様子や施設を理解して頂けるように努めています。職員の定着率も高く、20~60代の男女が活躍しており、長く勤めているベテランスタッフの安心感、専門学校卒業の介護福祉士も多くフレッシュさもあり、入居者様の好みに応じてスタッフも臨機応変に対応しています。他にも地域の方々が誰でも利用しやすい地域密着の施設を目指し、住み慣れた土地で生活を送って頂く事を目的とした共用型認知症デイサービスも行っております。スタッフや入居者様、家族様から意見、アイデアを聞き、毎日楽し

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、確認出来る所にあり入居者様の気持ちになって楽しく暮らして頂ける様に配慮している。また入居者だけでなく職員も幸せを感じる事が出来る施設作りを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の近所の方と会った時は必ず挨拶を行い、地域の清掃活動や防災訓練等にも参加している。近隣の小中学校の事業の一環で生徒訪問や運動会等の行事にも見学、参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を通して施設広報誌を発行し、地域の方々に回覧して頂く。施設敷地内に看板を掲げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、地域代表の方々に意見等を聞き反映している。自治体主催の防災訓練にも参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中川区西部地域包括イキイキ支援センターと運営推進会議を通して活動報告や市主催の研修会にも参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行っている。一部入居者様に安全の為夜間のみ行っているが、ご家族様に現状を伝え、一人一人に合った対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し、報告会勉強会を開き、職員全員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は自宅にて行い、ご理解されるまで優しく詳しく伝える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回家族会を開催し、意見を取り入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、意見を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時面談を行い勤務状況を確認している。給与明細の備考欄にコメントがあり、向上心を持って働く事が出来る様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開き、名古屋市主催の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方が見学に来たり、見学に行く機会がある。他施設との勉強会にも参加し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を取り入れ、契約時にアセスメント表を設けて家族様に希望、要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時や家族会議時に不安に思っている事や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況の変化により話し合って対応している。訪問マッサージや訪問歯科など必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレク、会話を通じて本人の個性や以前の生活背景を知る様に努め、常に入居者様目線でケアしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご本人様の状況を報告している。随時連絡を取り、情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方と面会、外出を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で良好な関係が築ける様に職員が輪の中に入り支援している。テーブル座席にも配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分なアセスメントを行い、希望に沿った生活ができる様に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などまとめて閲覧できる様にファイルにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の過ごし方、現状を記録に留め、職員一人一人が把握できる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、施設計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を作成し、記入している。特記事項は、職員連絡帳に記入し情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人合った支援を行い臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やお祭り、防災訓練、小学校運動会、コンビニ、喫茶店へ歩いて行き、楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医と提携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問があり、相談、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーと相談して関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様に看取りについて説明し、十分な話し合いの下取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習会やマニュアル作成、AEDを設置、緊急時の対応について職員全員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を行い、非常食、担架、ライフジャケットを準備している。消防団や消防署とも連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いを気をつけ、プライバシー保護を尊重し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で希望を聞き、参加の有無を本人に自己決定をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日洋服を選び、二ヶ月に一度の訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、後片付けを手伝っている。好みの量を聞いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し必要に応じて水分摂取量も記録している。栄養バランスを考慮し、肉、魚、野菜その他のメニューも偏りなく組み込んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、夜間は義歯を外し洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取って頂けるよう10時15時にお茶やコーヒーの時間を設けている。整腸剤の服用や腹部マッサージも適時行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	早朝や夜間の入浴希望、職員勤務時間シフトでは不可能だが、なるべく本人の希望に沿った入浴時間に行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、体調に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用後の記録、観察を随時行い、変化があればかかりつけ医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の放送や家事手伝い、買い物同行など役割を持って頂き、外出やレクで気分転換出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、床屋等に職員同行している。家族面会で外出、外泊される時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している入居者様を職員全員が把握し個人買い物時には自分で払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を掛けて頂いているが時間には配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や製作物を飾り、時間に合わせて電気、室温調整を行い快適に過ごす事が出来る様に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやリクライニングチェアを設置して仲の良い入居者様同士で座れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や仏壇、好きな飾り物を持って来て頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内で一人一人に合わせた足置き台を使用している。持ち手が付いた食器など食事時にも配慮を行い、夜間頻尿な方はポータブルトイレを設置している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23 (9)	一人一人の思いや意向の把握について十分なアセスメントを行っているが、職員の記録に対する意識には温度差があり、記録作成が徹底されていない。	日常的に利用者の意向を汲み取り、職員の記録に対する意識を高めて正確に記録し、共有の上、実践に反映できる体制になる。	・記録用紙の改善。 ・会議での職員へ記録意識を高める研修会開催。	12ヶ月
2	26 (10)	6ヶ月毎に入居者、家族の意見を確認し、モニタリング、ケアプランの見直しを行なっているが、ケアプランには「その人らしい」利用者の思いや意向を反映した「個別性」が乏しい。	職員が意識的に利用者の思いや意向の把握を行い「その人らしい」ケアプランが作成される事を期待したい。	・ひもときシートの活用。 ・日常的に入居者の意向を聴きとれるように、サービス担当者会議にも本人が参加する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。